

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

December 2023

## 十勝の初冬

朝6時になっても南の空がかすかに明るくなる程度、まだこうこうと満月が照らします。このような日は、放射冷却でマイナス10℃まで下がってきます。さすが寒いですね。日中でも氷点下、空気も地べたもガンガンに凍ります。景色は、黄土色、先日降った雪がところどころ残り、全面真白に間もなくなるでしょう。渡りの遅れたハクチョウたちの群れが、大空高く飛び、ふわふわの冬毛のまとった狐も獲物を探して動き回ります

牧場では、凍った水槽の解冻作業から始まり、牛が滑らないか気を付けて放牧に出します。デントコーンのスタッグサイロを開封し給餌し始めました。香ばしいにおいが漂い、牛たちが食べる。今夏の高温ダメージを払拭して、頑張って太ってね



## 活動のお知らせ

- 11/9(木)10:00-12:00 **第13回北海道肉専用種枝肉共励会** (株)北海道畜産公社 十勝工場  
21頭出展 最優秀賞/北の牧場舎 優秀賞/宮北牧場 赤身賞/駒谷牧場
- 同日 13:00-17:00 **第20回資源循環型肉牛生産シンポジウム2023**  
シンポジウムテーマ「脱炭素社会における資源循環型肉牛生産の意義と役割～耕畜連携における肉牛生産を考える～」  
とかちプラザ(帯広市) 68人参加 WEB参加39人  
パネルディスカッション 意見交換会/ランチョエルパソ44人 現地検討会/北広島24人
- 12/1(金) **ZOOM会議 事務局会議 シンポジウム総括と次年度に向けて**

## NEWSばか読み

- 農水省 23年度1等米59%過去最低 新潟13%コメ農家打撃  
11/1:天候不順深刻
- 外食産業、スーパーなど異業種が有機栽培拡大 安定供給へ
- 11/2:供給増につながるか  
大学付属農場協が沖縄でシンポジウム 離島物流対策等
- 11/2:経営課題多く
- 農林水関連24年度予算 8000億円超え 畑地化向け増額
- 11/3:有効利用  
インボイス制度が零細農家免税業者の経営に影響 11/4:絞り取り
- 策明白  
道酪対 24年度生乳生産量1%増403万t決定 増産へ 11/4:抑制から反転
- 日本メイズ生産協会 23年度子実コーン生産面積3割増1400ha
- 11/6:拡大基調
- 23年度WCS5.3万haに拡大 飼料高で需要拡大11/7:転換期か
- コメ価格指数が上昇傾向 生産量減・等級低下で11/7:飼料転嫁に変化
- 9月輸出農林水産物が3ヶ月ぶりに増加 茶・果実が好調
- 11/8:中国減分ホロー
- 9月家計食料支出3.7%減 物価高影響拡大11/8:食べてもらわないと  
農水補正予算 食糧安保に2113億円 畑地化和牛需要拡大  
11/9:既存施策の踏襲か  
農水省 コメ輸出が6割増好調 米国産高騰で販路拡大11/9:  
滋賀県「三方よしの近江牛」AWでブランド強化11/9:輸出も見据えて  
農水省 22年度施策 乳牛早期淘汰の申請が1/5低調 11/10:時代遅れ  
財務省 23年度上期国際収支 貿易赤字縮小11/10:  
9月牛マルキン発動 乳用種発動なし11/11:素牛価格下げ

- 農水省 日本畜産物輸出促進協会ほか2団体が品目団体に指定  
11/15:
- 訪日外国人10月251万人 コロナ前超え 紅葉誘客、円安効果
- 11/16:プラス効果
- 農水省 農業物価指数9月生産資材120高止まり 畜産用動物は低迷
- 11/16:真逆
- 世界気象機関(WMO)温室効果ガス濃度最高更新 異常気象の常態化  
11/16:深刻
- 中酪 10月生乳受託量4.6%減 15か月連続11/17:根本的
- 総務省調査 移住相談が急増 テレワークが普及 長野県1位11/18:
- 国土交通省 ドローン規制緩和 山間部監視不要11/18:浸透  
牛マルキン 肉専用種42道府県で発動 素畜費高11/18:影響広範囲
- 新潟生物多様性国際会議 環境再生型社会で共有「佐渡宣言」採択
- 12/20:重要性認識  
農水省 27年度補助事業から環境負荷低減が要件に
- 12/21:みどり戦略推進
- 24年度予算 農水政策で和牛増頭を抑制 増頭奨励見直し11/22:転換  
国際NGO 炭素排出量が富豪1%が貧困50億人に匹敵
- 11/22:見方評価  
愛媛県 かんきつ非品種登録を米国で商業栽培11/23:海外活用課題  
Jクレジットにバイパスアミノ酸追加11/23:牛グープ抑制論議  
日本甜菜製糖 メタン抑制カギケノノリを陸上養殖し国内飼料生産  
11/21:  
農水省 和牛消費拡大 販路開拓イベント訪日客向けPRに補助  
11/27:実効性?  
岩手県 積雪地域で飼料2毛作 DCとWCS組合せ11/29:取組評価  
COP28 持続生産と気候対策両立「エミレーツ宣言」  
11/30:論議と実行課題

## 東京直近NEWS(11/29 Shi-REPORT)

## ホルス

市況相場低迷。頭数状況変わらずも枝肉相場下落。  
販売状況は気温低下とともに徐々に引合出てきている。ロイン関係中心にカタコース、モモ、スネ問合せあり。但し、カタコースは例年ほどの問合せは無く特に冷凍は産地によっては在庫余裕の可能性も。  
需要期へ向けた販売回復期待も、ホルスは12月中旬までが勝負であり、切落し材の引合がカギか。  
輸入物もコスト増でホルスにシフト期待も価格差が課題。

## 経産牛

経産牛相場は高値安定で推移。上場頭数は昨年並み維持しており頭数の目立った減頭は無い。産地はガリ枝比率増、脂もの枝はさらに高値。今後頭数減の可能性大も頭数の変動次期時期は不透明。販売はロイン強気、カタコース、スネ、モモ、プリスケ中心に引合強い。  
季節柄トモバラが一服してきている。挽き材は好調ではないが、一定量の引合維持してるが豚挽き材の価格変動に大きく左右される。  
パーツ挽き材ともに相場高騰と製造コスト上昇から値上げ見込み。

1. 畜産技術821号(2023.10)

(1)海外情報:EUと米国が導入する農業の炭素除去等認証制度(平澤明彦、農林中金総研)

EUと米国は農林業からの炭素除去とGHG排出削減の認証制度を整備しています。EUではカーボンファームを提唱し、農業で通常を上回るGHGの排出削減や脱炭素に報酬を与え新たなビジネスモデルを構想しています。一方米国では農林業クレジットによりGHG排出量を取引する方式です。いずれも農林業からの脱炭素量や削減量の公正な評価基準などの課題が残されています。

(2)国内情報:ドライエイジングと微生物(五箇大成、富山県広域普及指導セ)

牛肉を真空パックで冷蔵熟成するウェットエイジングから乾燥熟成で熟成香が生じるドライエイジングに関心が高まっていますが、熟成香生成に関与する微生物の実態は不明です。乳雄去勢肥育牛のウチモモ肉に熟成香生成に関わるとされるエダケカビを塗布し、2℃、湿度70%で35日間ドライエイジングしカビの影響を検討しました。食肉部と30日目に白カビで覆われた表面の遊アミノ酸含量や揮発性物質は増加しましたがカビの効果とは見られず、揮発性物質の1つであるフェネチルアルコールがエダケカビにより増し、エダケカビがドライエイジングの特徴的熟成香の生成に関与していると思われました。

2. 畜産技術822号(2023.11)

(1)日本畜産学会第131回大会参加報告(寺田文典他、明治飼糧)

今年の日本畜産学会大会コロナ禍による中止やWeb開催などを経て4年ぶりの対面開催でした。参加者数669名、一般講演の演題数253題で、分野別では前年同様栄養・飼養が多く、今年はGHG発生抑制の課題が多く、肉牛関係の講演はe-びーふNews118号に一部紹介しました。

(2)用語解説:畜産経営安定対策としての「ゲタ」「ナラシ」「マルキン」等(丹菊直子、農水省畜産局)

畜産分野で投資額が大きく飼養期間が長い酪農、肉牛、養豚業では社会情勢の変化に対応した生産が難しいことから、農水省の隠語的経営安定対策があります。「ゲタ」は乳価の低い加工乳生産者補給金と、「ナラシ」は加工乳生産者経営安定対策事業のことでいずれも単価は審議会の議を経て決められます。肉用子牛生産の安定を図るための生産者補給金と肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)があります、標準的販売価格が生産費を下回ると交付され、その1/4は生産者の積立金、3/4は国費です。養豚業にも(豚マルキン)があります。

3. 日本産肉研究会 第32回学術集会  
「有機畜産の現状・普及・課題」続き

産肉研究会は日本畜産学会のサテライトとして開催され5人の演者による話題提供と学生会員からのプレゼンテーションがあり、有機JASへの道、生乳・牛肉・卵でJAS有機認証を取得した若手酪農家の実践例、有機畜産物の流通における課題、放牧畜産指向の消費者団体の活動事例、学生会員の有機畜産への思いなど、その展開には多角的な価値のアピールが必要のように思われました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

転載・再利用は固くお断りします

話題提供「農地を守ろう!カバークロッププロジェクト」2回シリーズ①  
東都生協商品部 部長補佐 吉澤 正義氏

